

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年1月5日

学部・学科名 外国語学部・中国語学科

担当教員氏名 黄 媛玲

1. 区分	中期留学 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">語学研修</span> ・ 海外実習
2. プログラム名称	中国語学科夏期海外研修（インターンシップを含む）
3. 渡航先国名	中国（オンライン）
4. 派遣期間	2021年8月9日（月）～2021年8月20日（金）12日間
5. 派遣先教育機関名	北京外国語大学
6. 参加学生数	20名
7. 派遣目的	オンラインによる語学研修および中国進出日系企業研修
8. 派遣内容	研修期間中、月曜日～金曜日の午前はテンセント会議を使って、北京外国語大学の語学研修を受けた。中国語学習歴により上級と中級の2クラスに分け、いずれのクラスも総合演習（毎日）・中国文化学習（週2回）・会話（週3回）の3種類の授業構成となっている。企業研修はZoom会議により8月17日の午後にキューピーとイオンの2社の研修が行われた。企業担当者による中国におけるビジネスの特色の説明および工場・店舗案内を受けた後、学生たちはブレイクアウトルームを使ってグループ討論を行い、再び全員集まってグループごとに企業の担当者に質問を行い、説明を受けるという構成内容である。

<p>9. 成果</p>	<p>研修後2か月ほど経過した後に提出された参加学生の報告に基づき、以下のことが成果として確認できた。語学の授業はすべて中国語を使用するため、集中して聞くことを鍛えられリスニング力が向上した。教員の指導が丁寧で優しく、また少人数クラスで発言を頻繁に求められるので、話す自信もついた。中国文化についての授業もパワーポイントなどを有効に使って興味をそそる内容であったため、一層中国に対する文化的関心が増した。北京外国語大学の中国語教育専攻の大学院生1人に対して、本学学生2人の会話授業は、他の授業で分からなかったことについて質問することもでき、また自分たちの関心のある話題をめぐって、長時間の会話ができたことで、非常に好評であった。海外研修後の本学での学習において力が付いたことを実感し中国語学習に対する意欲が増した。さらに長期留学したい気持ちも一層強まった。日系企業研修は、現地派遣で数年間の実績があったこともあり、初めてのオンライン研修要請にも快く応えてくれ実現できた。本学の経済専門教員による事前指導（企業研究、研修中のマナーなど）の時間を2回設定し、オンライン研修の効果を上げるために事前ガイダンスを行った。中国市場の特色だけでなく、海外で働く人の実際的な話を聞くことができたことで、将来海外で働く可能性が高い学生たちにとって貴重な経験になったようである。</p>
<p>10. 備考</p>	

以上

オンライン海外研修の授業は大きく分けて3つでした。北京外国語大学の先生による中国語の総合演習の授業。北京外国語大学の先生による中国文化の授業。北京外国語大学の大学院生による少人数での中国語の会話の授業でした。

中国語総合演習の授業では教科書に沿って全て中国語を使用した授業でした。私が参加した中級クラスでは、比較的ゆっくり授業を進めてくださり、しっかり理解しながら受けることができました。

文化の授業では先生が用意してくださったパワーポイントを見ながら全て中国語を使用し中国のお茶や観光地などを学びました。

大学院生との会話授業では自分達で題材を決め、それについて中国語で自由に会話をするという内容でした。

全ての授業が楽しく、学ぶことがとても多かったのですが一番良かった授業は大学院生による授業でした。大学院生1人に対しこちらの生徒は2人と会話をせざる得ないといった状況で学ぶことも多かったです。特にコロナの状況下での中国のリアルな様子、日本での様子の意見交換をしたときはお互いにビックリしたことが沢山ありました。ニュースでは中国のことを見たりはしていたのですが、少し違った部分もあったので現地の人から状況を聞くことは大切だと感じました。

コロナ禍での海外研修のため、オンラインになってしまったのは残念でしたが、オンラインだからこそ、日本にいながらも2週間、みっちり中国語に触れる機会となり、自分の中国語のアウトプットの間としてとても良い時間を過ごせました。

クラスは、中級と上級に別れ、少人数で北京外国語大学の先生の中国語を聞いたのがとても良い機会でした。わたしは上級クラスに参加したのですが、先生は私たちのレベルに合わせてわかりやすく、はっきり、ゆっくりと中国語を話してくれました。また、教科書の中からいくつか重要な単語を先生がピックアップして、その単語の意味や、発音、例文をわかりやすく説明してくれたので、単語を覚えるというよりは、使い方まで一緒に学ぶことができました。そして、その単語を使って自分たちで例文を考えて発表し、先生からの指導を受けたことで、文法まで一緒に学ぶことができ、とても有意義な2週間を過ごすことができました。

北京外大の中国語教育専攻の大学院生と日本人学生二人のグループ授業では、大学院生の方が毎回、とても手の込んだパワーポイントを私たちの興味のあるトピックから、作ってくれて、日本にいるだけでは学べない、日常生活ですぐに役立つような中国語を会話形式で学ぶことができ、細かいところの指摘や、わたしたちが分からなかった時に気軽に質問できて、かつ、アウトプットの間としてとてもよい時間でした。

文化の授業では、わたしたちが日本で学んだことにプラスして、中国の朝ご飯やイベントなど、より深い文化について興味深いところまで知ることができました。日本について、私たちが中国語で紹介する機会もあり、日本の文化を私たちの中国語で紹介でき、お互いの文化交換の良い機会になったと思います。

その後、受けたHSKではリスニング力が上がった気がしました。次は、北京外大に直接訪問できたらなと思います。

今回の海外研修では、インターンシップとして現地のキューピーとイオンの営業についてオンラインで説明を聞き、授業では中国語の文法と文化について学ぶ授業と会話の授業を行った。

インターンシップでは各日本企業の現地での営業方法について学んだ。同じ商品でも販売食品の味も日本とは異なるほか、蟹の大売りのような日本ではあまり見られないものを売っているなど、販売対象である現地の人々が求めるものを研究して来たことがわかった。

授業では、中国語における様々なスキルを上達させることができたと感じる。WeChatを使ったクラスのチャットでは北京外大の先生方のチャットから中国のネットスラングを知ることができた。また授業は常に中国語で、約4時間日本語を聞くことがない環境におかれていた。最初は全く聞き取れなかったことが多かったが、研修後半になると先生が言っていることがわかるようになってきた。また、全ての単語を聞きとろうとするのではなく、聞き取れた単語を組み合わせ先生の言いたいことを理解するといった工夫もするようになった。そして、聞き取ることに集中することで集中力も身についたと感じる。

この研修の中でもっとも力がついたのは会話のスキルである。大学院生との会話の授業では、最初は緊張や不安から怖がって自分から伝えるということができず、相手の話に相槌をうっただけであったが、次第に自分の意見を伝えて相手に理解してもらえるようになった。それ以外にも互いの国で最近はやっていることなどを教えあい、隣の国でもかなり文化が違うことを発見した。

この研修後の中国語の授業では、自分でも実感できるほど中国語話者の先生の言っていることが理解でき、発言も積極的になったと感じる。

今回の研修では私が海外の人と話すことが好きだということがわかったため、進路も海外と交流のある職業を目指したいと思う。